

日本のふるさと。自給自足的循環社会

広報 京丹波 8

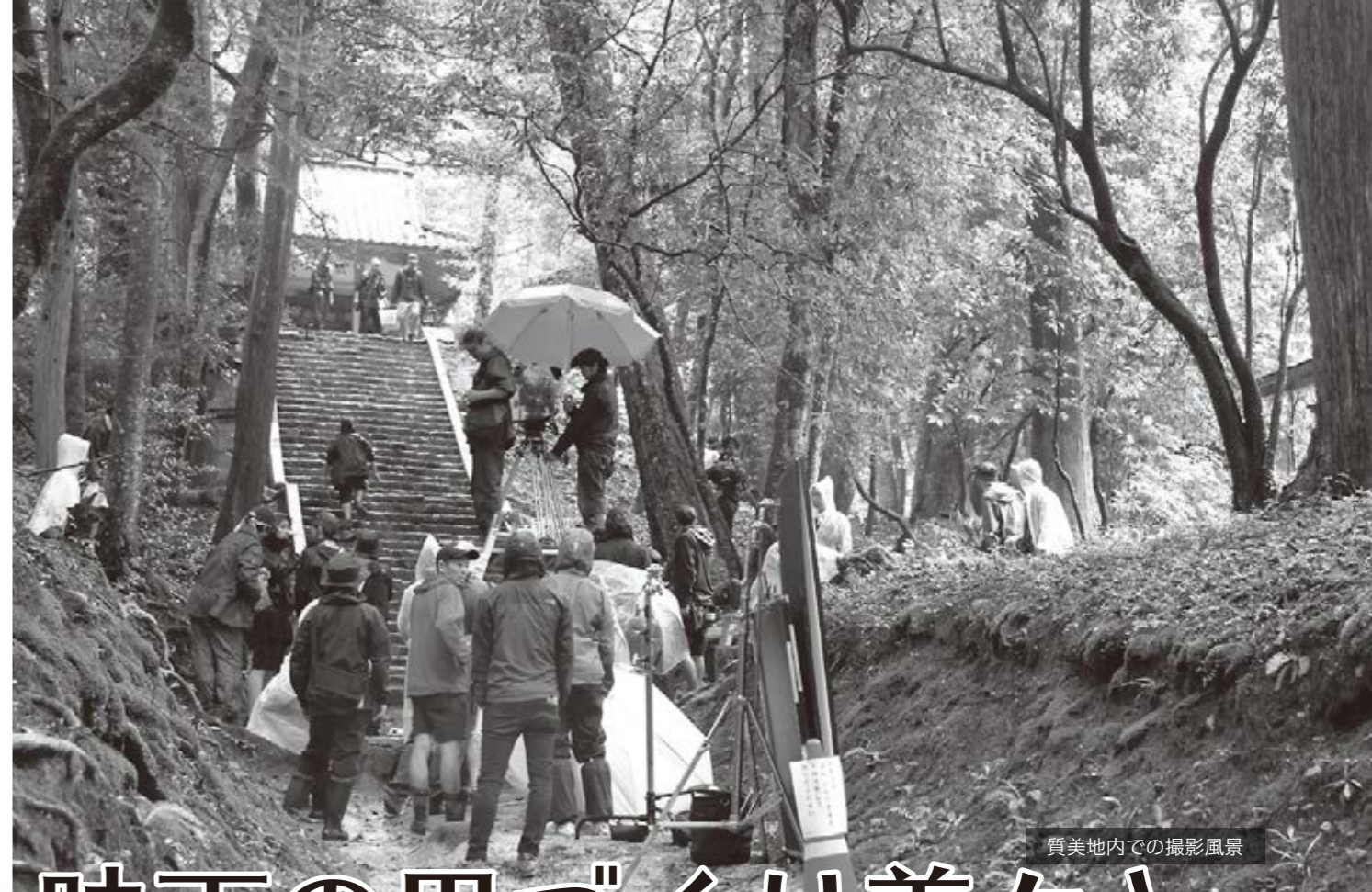
NO.142 2017.8.17 発行 TOWN KYOTAMBA

と れ た あ !

- 02 映像の里づくり着々と
～京丹波町口セッションオフィス発足～
- 04 須知高校生の企画を商品化 ほか
- 06 将来の医療人を育成、町病院で職業体験
- 07 いきいき医療術
- 08 まちの話題
- 10 まちの元気人

箸の手ごたえを頼りに、流しそうめんを目線より高い位置で見事すくい取り、喜ぶ児童。
(北海道下川小と和知小6年生の子ども交流/
7月28日わち山野草の森)





質美地内での撮影風景

映画の里づくり着々と

京丹波町ロケーションオフィス発足

まちの風景や建物などを映画やテレビ番組などの撮影場所として提供し、観光客誘致などにつなげるロケ誘致事業。昨年7月に「本能寺ホテル」（綾瀬はるか主演・東宝配給）の炎上場面を安井地区で撮影して以来、町内でテレビ番組やCMなど11作品の撮影が行われました。

その推進の核となる「京丹波町ロケーションオフィス」が6月1日、京丹波町観光協会内に発足しました。撮影や取材支援の総合窓口として体制を整えるため、平成30年度までの2年間、株式会社エソジョイ日本の支援を受けます。

同社の企画運営担当、知見雅彦さんは、「京丹波町の立派な自然と撮影しやすい環境は強みになる。整備中の森林公園（仮称）は、炎上や爆破など特殊な撮影にも対応できることをアピールしていきたい」



ロケ弁開発のための試食会(3月7日)

「たい」と東映株式会社で映画製作に携わってきた経験を生かし、作品誘致の戦略を巡らせませす。「撮影場所の決定は、物語の設定に合う複数の候補地の中から、さまざまな条件が考慮される。一つでも多くの作品を呼び込むため、京都市メディア支援センターと情報交換をしている」。

本事業の拠点となる安井地区の旧浅田農産跡地は、平成26年度に施設解体工事に着手し、旧鶏舎や大型備品など計18棟の撤去を8月中に完了する見込みです。今後、同敷地内に撮影で使用する施設の整備や森林公園（仮称）の造成などの設計を予定しています。



建物の撤去工事が進む旧浅田農産跡地

京丹波で作られた映像作品を 全国、世界へ



「地元でまちに関わる仕事をしたかった。まちをもっと元気にしたい」と意気込む、京丹波町ロケーションオフィスの徳島翔太さん（新水戸）。撮影現場で地元との連絡調整や弁当の手配、物品の搬入などを行い、円滑な進行を臨機応変に支えます。「京丹波で作られた映像作品が全国、世界へと発信されるよう、まちの皆さま一人ひとりが協力者になっていただけるようにしたい」

「ロケ弁」の提供開始 一般販売は今秋から

撮影に必要な資材などを町内で調達し、作品にちなんだ観光商品を開発できれば地域経済の活性化につながります。

ロケ弁当は撮影関係者の利便性を図ると同時に、『あの作品の制作を支えた食』という商品価値になります。昨年10月には、ロケ弁当開発の参画者を募り、安井地区の「京丹波ほたるの里」や町内飲食店など6者が、地元特産品を取

り入れた献立を用意。料理家の西村秋保さんから、見栄えの良い見せ方や価格設定による差別化など、選ばれる商品づくりの助言を受け、試作を繰り返し返しました。

今夏、撮影現場への配食が始まり、制作関係者には、「味も量も満足。高速道路を使ってでもまた買いたい」と好評です。一般販売は、9月中下旬からの予定です。

高まる人気 ふるさとに誇り

町がロケ誘致事業を始める前からしばしば撮影の舞台となった質美八幡宮。平成27年には映画「無限の住人」（木村拓哉主演）の撮影が行われ、地元では神社周辺の交通規制など円滑な撮影に協力しました。現代的な構造物は、時代作品の撮影の支障になる場合があるため、現在、境内の設備の改良を検討しています。

総代の澤村秋良さんは、「著名人らの撮影地になり、地域や文化財への意識が高まった。地元では、映画のエンドロール（※）に質美八幡宮の名を見て、『ものすごくうれしかった』と喜んだ。住民がエキストラなどで出演できれば、

地域に向ける目も変わるのでは。過疎高齢化を憂うばかりでなく、視点を変えることで光るものを見つけられるかもしれない」と前向きな雰囲気を感じています。

ロケ誘致事業への
ご意見などをお寄せください

町民の皆さまと共にロケ誘致事業を推進するため、皆さまの意見、アイデアなどをお聞きするアンケート調査を実施します。無作為抽出による5000人へ8月下旬に調査票を送付するほか、町ホームページでも回答を募りますので、ご協力をよろしく願います。



撮影現場に届けられたロケ弁



電柱に樹皮のようなものを巻いて、構造物を風景になじませる美術スタッフ

※エンドロール…映像作品の終幕に出演者、制作者、協力者などの氏名を示す字幕。

須知高校普通科3年生が企画

サラダそふとクリーム

地域経済の活性化めざし大学生や事業者と連携

須知高校普通科の3年生が町内事業者と連携し、大豆や野菜を活用する健康志向のソフトクリームを商品化。7月9日に道の駅「京丹波味夢の里」で販売しました。

サラダそふとクリームは、豆乳ソフトとしょうゆソフトの2種類があり、それぞれ京野菜入りの洋菓子が添えられています。



試食を配って商品をPRする生徒



生徒らは、野菜が不足しがちな現代の食生活をビジネスチャンスと捉え、日本の伝統食品である豆腐やしょうゆ、有機栽培の京野菜を使用。健康意識や美容意識の高い人の需要を意識しました。試作品づくりには、竹岡醤油株式会社（亀岡市）や小畑豆腐店（大倉）、京都学園大学生の協力を得て、企画案を道の駅「京丹波 味夢の里」へ提案。さらに大量生産が可能な工夫を加え、完成しました。

発表会では、高校生が取り組みの経過を報告し、「二日に必要な野菜摂取量の3分の1を含み、塩分は1日の基準摂取量の10分の1。野菜は天日干しで栄養素も風味も増している」と魅力をPRしました。

た。しょうゆソフトを試食した女性客は、「ほのかな塩味が、甘みを引き立てて美味しい」と好評。商

品は8月下旬まで当店で試験販売し、実績を踏まえて今後の販売方法などが検討されます。

町内すべての学校で子どもが主体の確かな学びを「学びを育む京丹波町メソッド」の導入

町教育委員会は今年4月、児童生徒の学力向上に向けた授業改善の視点などを示す「学びを育む京丹波町メソッド」を町内の幼稚園、小中学校の教職員に配付しました。

善をテーマに講演。参加した教職員は「メソッドのねらいがよく分かった。2学期からの授業づくりを生かしたい」と受け止めました。

また、町内の幼稚園、小中学校、高校が連携し、児童生徒の発達段階に応じた授業改善を進めるため、7月31日に全教職員を対象に研修会を開催。丹波ひかり小学校地域交流センターで、同小の塩貝哲哉教諭と瑞穂中学校の安村一彦教諭が、メソッド導入に向け、児童生徒の主体的な学びや学習意欲の向上に取り組んだ実践報告を行いました。

さらに十文字学園女子大学の富山哲也教授が、学力向上と授業改



実践報告をする丹波ひかり小学校の塩貝哲哉教諭

地域包括ケアシステムを広い視点で推進 第7期介護保険事業計画などの策定に向けて

地域の実情に応じた高齢者福祉施策を実施するため、京丹波町地域包括ケア推進委員会を7月13日、瑞穂保健福祉センターで開催。本年度で計画期間が満了となる高齢者福祉計画と介護保険事業計画の次期計画策定に向けて、協議を始めました。

委員会は、公的サービスと地域の共助などを合わせた仕組みを検討するため、地域活性化団体や町内事業所など計20団体から委員が参画しています。委員長に身体障害者福祉会の片山俊明会長、副委員長に社会福祉協議会の津田勝二事務局長を選出しました。

協議では、現行の計画を評価・検証し、第7期計画の骨子案を検討。過去3年間の介護サービスの利用状況やアンケート調査からみえた課題を踏まえ、本町の高齢化の進行速度を考慮し、年度内の策定に向けて検討します。



事務局が現行計画の実績を踏まえて骨子案を提示

いきいきと生活できる 地域を目指して。

共生社会の実現に向けた施策の充実を 第3期障害者基本計画の策定に向けて

地域の実情に応じた障害者福祉の体制整備を協議する地域自立支援協議会を7月7日、瑞穂保健福祉センターで開催。現行の障害者基本計画と障害福祉計画が平成29年度に計画期間を終えるため、次期計画の策定に向けた協議を開始しました。

障害者基本計画は、障害者基本法に基づき、障がいのある方のための基本的事項を定めた市町村計画で、障害福祉計画は具体的な支援策などを定めています。

委員は、民生児童委員協議会や福祉事業所、相談員や支援機関など15団体から参画し、会長に丹波桜梅園中村弘事務局長、副会長に民生児童委員協議会の石田美恵副会

長を選出。協議では、過去3年間の障害福祉サービスなどの利用実績や関係団体・事業所への聞き取り調査の結果をふまえ、障害者基本計画骨子案について意見を交わしました。



福祉サービス利用実績や聞き取り調査の結果を共有

年齢や障がいの有無に関わらず 支え合い



いきいき健康術 第120回

町立病院・診療所の医師や専門職員が健康情報をお届けします。

京丹波町病院 佐川友哉 医師

平成 29 年 4 月から毎週水曜日に勤務。

京都府立医科大学附属病院リウマチ・膠原病が専門。



必要以上に多くの薬を併用してしまっている状態

外来・病棟で診療を行っている、非常に多くの種類の薬を内服されている方を少なからずおみかけします。通常はさまざまな症状に対して処方された結果なのですが、なかには不要と考えられる薬もあり、そのような状況を“ポリファーマシー”という用語で表現します。

一般に年齢とともに持病の数が増えるため、どうしても薬の種類は増えやすいのですが、残念ながら副作用や薬同士の相互作用で何らかの症状が出ることもあります。また、薬の効果が重複している例もみかけます。そのため、なるべく最低限の薬で治療を行っていくことが理想です。



京丹波町病院 電話 0771-86-0220
町立医療施設の敷地内は全面禁煙です。
ご理解とご協力をお願いします

「ポリファーマシーをご存知ですか」

ポリファーマシーに至る原因は、「①複数の病院にかかっている」「②薬の管理がうまくできていない」「③薬を中止できていない」などが挙げられます。

主治医は、患者が他の病院でもらっている薬をすべて把握することは難しいので、受診の際は必ず薬手帳を持参しましょう。また、限られた診療時間内に、他の病院でもらっているすべての薬について主治医に相談することは難しいかもしれませんので、かかりつけ薬局を持ち、そこでも相談をしてみてください。薬局でもらう説明書をしっかり読み、『飲んでる薬がどのようなものを把握する』ことも大切です。また、身体的な問題などで、薬を適切に管理できないこともあるでしょう。実際に「大量の薬が内服されずに自宅に残っていた」、逆に「短期間ですべての薬が無くなってしまった」という方がいらっしゃいます。そのため、家族や施設の職員、ヘルパー、訪問看護師の手助けを得ることも重要です。

長年飲んできた薬を中止することに抵抗を感じる方もあるかもしれませんが、新しい薬に変更したり、重複する薬を中止したりするだけで体調が良くなることもあります。主治医から提案があったときは、前向きに検討してみてください。

医療人を育てるジョブシャドウイング 若き有志ら町病院で医療現場の実際に学ぶ



京丹波町病院では、看護・医療系を志望する学生にジョブシャドウイングの機会を提供しています。ジョブシャドウイングとは、職業人に影のように密着して職場での仕事ぶりを観察する体験で、7月26日には、看護師、理学療法士、薬剤師、管理栄養士を目指す京都府立綾部高校の生徒16人が、実際の業務を観察しました。

当病院では、町民のあらゆる健康上の問題や疾病に対し、総合的・継続的に対応する地域の保健医療福祉機関として機能強化を図っており、スタッフは専門分野はもちろん、総合的な対応力を求められます。

生徒らは、病棟看護や訪問看護、訪問リハビリ、病院食の調理などを見学、一部実践。また、最新の医療機器を見学し、地域連携室の役割なども学びました。

平田千春総看護師長は、「私たちが患者さまに過ごしやすい環境を提供するために、どのように関わっているのか、それぞれの職員の姿勢から感じ取ってもらいたい。この体験が進路実現の原動力となり、将来、若い人材が地元で働くことに結びつけば」と期待を込めて指導しました。

継続した受け入れに感謝状

職業体験の受け入れは今回で4回目となり、継続した人材育成の取り組みが、キャリア教育推進の一助になっているとして、京都府教育長から感謝状が贈られました。



放射線技師が使う放射線を通さないエプロンを試着

現状を考慮した京丹波町消防団のあり方を検討 年度内の答申に向け消防団組織等審議会が協議開始

町消防団の今後のあり方を審議する京丹波町消防団組織等審議会を7月3日、役場議場で開催。会長に湊嘉秀京丹波町区長会副会長、副会長に西村恵美子京丹波町女性の会副会長を選出し、将来の組織のあり方などについて諮問を受けました。

町消防団は平成18年4月に発足し、平成20年2月に策定した消防団運営の基本方針に基づいて活動しており、団員を取り巻く状況の変化に対応するため再検討するものです。委員は、町議会議員や消防団幹部、京都中部広域消防組合などか

ら参画しており、今後、現状を踏まえて組織や定数、団員の処遇などについて協議し、本年度内に答申します。協議の開始を受け、町消防団は地域における団員の状況を把握するため、アンケート調査を実施しました。



美味し〜デザート〜できるかな

下 山小児童と白土村づくり会

下山小学校3年生が7月11日、下山の白土村づくり会に教わり、小豆の種豆をまきました。児童らは、地元の特産物を通して町の魅力を学んでおり、村づくり会の協力を得て、小豆や黒大豆、サツマイモの栽培に取り組んでいます。この日は、畑に等間隔に京都大納言の種豆をまいて土をかぶせ、バケツにたっぷりの水を協力して運び、丁寧に土を潤しました。11月には収穫し、小豆を使った菓子作りに挑戦します。児童は、「美味しいデザートを作りたい」と作業に汗を流し、収穫を楽しみにしています。



農家にコツを教わり種豆をまく児童ら



アドバイスを受けながらパドルを操る参加者

FLASH

KYOTAMBA TOWN ALBUM 2017



ボールに向かって水田での走力を競う「泥んこビーチフラッグ」

ボール追いかけ水しぶき

泥んこソフトバレーボール大会

水田で競う「泥んこソフトバレーボール大会」が7月23日、三ノ宮地内で開催され、職場や友人らで編成された7チームが奮闘。泥に足を取られながらもボールを追いかけ、飛び込む姿に歓声が上がりました。大会は地域のつながりを深めよう

FLASH

KYOTAMBA TOWN ALBUM 2017



道の駅利用者へ協力を呼びかけた(須知高) 学校と生徒、保護者が協力(和知中)

と三ノ宮地域振興会が主催し、今年で11回目になります。仮装で参加でき、チームごとに個性的な衣装で場を盛り上げました。リーグ戦の合間に行われた、水田での走力を競う「泥んこビーチフラッグ」では、参加者が水しぶきを上げて華麗に駆け抜け、会場を沸かせました。

川風の心地よさ感じて

カヌー体験教室が人気

カヌーの魅力伝える体験教室が7月15日から8月上旬まで計5回、和知川カヌー艇庫前で開かれ、町内外の親子連れなどが水上散策を楽しみました。和知川では冬季を除いてカヌー体験を楽しめ、教室はカヌーに親しむきっかけに毎年開催

「ひかりサミット」で児童提案

給食の食べ残しを減らそう

丹波ひかり小学校で7月11日、3年生以上の学級代表や各委員が、学校生活の向上をテーマに話し合う「ひかりサミット」を開催。給食の「食べ残しゼロ」に取り組んだ成果を報告していました。

6月の第1回サミットで、学校をもっと良くするためにどうしたらよいかを話し合い、給食委員が食べ残しの多さを提起。各学級で話し合い、「しゃべらず食事に集中する時間をつくる」「早く準備する」などを実践しました。斉藤聖子給食主任は、「個々の意識が変わり、学年によつては食べ残しがゼロに近づいた」

九州北部豪雨災害の被災地へ

中 高校生が義援金募る

九州北部の豪雨災害を受け、和知中学校と須知高校では、各生徒会が中心となって義援金活動を実施。和知中学生徒会は7月19日から2日間、登校時の校門に立ち、災害報道の新聞記事を集めたパネルを掲げて協力を呼びかけました。生徒会長の野間駿平さん(同中3年)は、「九州北部の皆さまが早く普段

地域の支えに感謝

道の駅「京丹波 味夢の里」2周年

町民と駅利用者のふれあいをテーマに2周年祭を開催。7月9日は出荷者協議会の「100円市」や紅白杵つき餅、京都府北部・南部地域から出展された海の幸やお茶の特産品が、賑わいを添えました。また、当駅を拠点に活動する音楽サークルが生演奏や歌声を披露し、ドライブ休憩のひと時を癒しました。オープン以来、観光客の利用は好調で、沖哲司駅長は「今後は町内

しています。参加者は町カヌー協会の指導員に艇の乗降やパドルの操り方などを教わり、上流に向かってこぎ出しました。

京都市の上田さん親子は「景色がきれいだった。鉄橋を渡る電車も見ることができた」と川面からの光景を満喫しました。

と変化を実感しています。給食委員の児童は「この気持ちで取り組みを続けたい」と呼びかけました。

取り組んだ内容と成果を報告する児童



の生活に戻れるよう役立てば」と願います。

また、須知高校生徒会は20日、道の駅「丹波マーケス」内で義援金を募集。被害の甚大さに驚いたと話す生徒会長の古澤風さん(同高3年)も、「災害は他人事ではない。被災された皆さまに早く元の生活を取り戻してほしい」と思いを込めました。

の皆さまにも利用していただけるよう工夫したい」と意気込みます。

見物客も餅つきを体験



曾根川沿いに
サギの群れ30羽

魚やオタマジャクシなどをエサにするサギは、川や田でよく見かけます。7月下旬に曾根川沿いで30羽以上のサギの群れがいました。



人の動き

人権擁護委員

平成29年7月1日に委嘱状が交付されました。任期は平成32年6月30日までです。
(敬称略)

〔再任〕 湊 令子 (須知)
〔再任〕 堀川 好 (小畑)

もったいない

和知に生まれ育ち102年目の夏。田園風景を見渡せる一軒家で、一人暮らし。町内に住む娘家族の手助けがあり、家事や庭の手入れ、身の回りのことをこなす。「朝、顔を洗って、神さんに元気で過ごせる



奥戸とみさん (大倉)

ように頼んで、仏さんのお茶を替えて、般若心経を唱えて、「ありがとう：ありがとうございます」と。晩は寝る前に「ありがとうごさいます。明日も元気で過ごせました。明日も元気で過ごせますように」と神

さんにお礼して、仏さんに「ありがとう、ありがとうございます、今日は誰それが来てくれてうれしかったなあ」、来客がない日は「誰も来てくれなくて寂しかったなあ：ありがとう」というのが毎日の行事」と手を合わせる。

大正4(1915)年に生まれ、小学校卒業後、父親の勧めで高等科へ進学し、グンゼに勤めた。「主人とは好きになつて一緒にあったけど、戦争中やつたで結婚式も何にもせんと、借家を転々とした」。間もなく、夫は戦地へ。「大倉の金毘羅さんで拝んでもらって行きました。戦争中の暮らしは、ほんまに憐れなもの。山で木の実を摘んで食べ、ご飯といつても麦ばかり。ほんまにようあんなものを食べて、生きられたなあと思う…」

れよつた。怖かったなあ」戦地から帰らぬ人も多かったなか、夫は無事に戻り終戦。「元気で帰ってきたくてうれしかった。初めに建てた家は風呂もない小屋やつたけど、主人が真面目によう働く人でせんぐり具合ようできた。おかげで今も不自由せんと、ほんまにもったいない」と面影に感謝。

活動的な性格で何事にも積極的に取り組んできた。「町やら郡の婦人会長、老人会長、民生委員もさせてもらつて、大勢知り合いができた」旧友から今も年賀状が届く。健康に良いと聞いた食事は実践する。「一日にいっぺんは酢の物を食べる」野菜は毎食たっぷり、昼は肉、夜は青魚を選ぶ。定番の献立は野菜の炊いたものや肉うどん。懐かしい日々は作文教室の文集や日記に残る。「今も日記を気張って書いてる。今日(取材)のことも書いてくわ(笑)」今日を振り返り、人生を振り返り、返す返す言葉になるのは、「こない長生きさしてもろて、幸せな暮らしができて、ほんまにもったいない」という感謝。

図書室がおすすめする こんなときの、この一冊
『100歳の精神科医が見つけた 心の匙加減』
高橋幸枝・作/飛鳥新社



普段、何気なく過ごされている人、悩んでいる人、若い方からそこそこの人生を過ごされた方…！！
気軽にこの本を手に取り、見出しを読むだけでも「ウン！ウン！」とうなずけ、人生の道しるべになる本です。長年生きてこられた方の言葉だけに、素直に心に入ってきます。料理でも調味料の匙加減で味が決まるように、自分の心の匙加減で人生の生き方を…参考にできる読みやすい本です。

(三ノ宮公民館図書室：西山園子さん)

図書室ご案内 中央公民館(蒲生)、山村開発センターみずほ(大朴)、旧梅田保育所(鎌谷下)、三ノ宮基幹集落センター、質美振興センター、和知ふれあいセンター(本庄) 貸出期間 2週間 1回の貸出冊数 1人5冊まで

お茶の間

家族が集まり心通わせた「お茶の間」のようなページをめざしています。

「こんにちは赤ちゃん」コーナー 投稿をお待ちしています

〈対象者〉町内在住の生後1歳未満のお子さま
〈申込方法〉お子さまの顔写真に申込書を添えて、役場または支所まで、持参・郵送・メールのいずれかで届けてください。メールの場合、件名を「こんにちは赤ちゃん」として、申込書に記載する必要事項をメール本文に記載し、写真を添付して下記アドレスへ送付してください。

【問】京丹波町企画政策課
電話 0771-82-3801
Eメール kikaku30@town.kyotamba.lg.jp

義援金などの受付状況

熊本地震義援金	2,002,840円
福島県双葉町復興支援募金	7,364,627円

(平成29年7月30日現在)

わたしたちの町

人口	14,678 (-14)
男	6,966 (-9)
女	7,712 (-5)
世帯数	6,369 (+18)

8月1日現在 / () は前月比

ふるさと応援寄付金のお礼

ドクタータウン工房(株)	2万円
ハッピードッグライフ(株)	2万円
樋口裕城	2万円
片山山治	10万円
斉藤正治	3万円

*掲載内容は寄付者の了解を得ています

チャレンジ! 頭の体操クイズ

Q 東の反対側 = ?

ヒント: 掛け算で数字が入ります。

(答え) 824x2←西



地域の「和」をはぐくむ、向き合う景観

ひな壇のように対岸の家並みや田畑を眺めることができる河岸段丘。山間を蛇行する由良川とその支流、高屋川との合流付近に発達した段丘は、国土地理院が選んだ「日本の典型地形」に数えられます。

その生い立ちは、70万年以上もの太古の昔。河川の浸食作用で切り立った谷に土砂が堆積して谷底平野となり、後に隆起などによって浸食作用が活発化して段丘になったと考えられています。段丘は高位・中位・低位の3つに区分され、由良川河岸の高位段丘の堆積物から、その時代が更新世の中期・後期（77万3000年～12万60

00年前）であったと見なされています。（「和知町誌」より）

両岸の形状を一望できる中区の神社地内からは、10集落を見渡せます。当地が開拓された理由として、出野城が見えたこと、敵の襲来や災害などを監視できたこと、地質が岩盤で狼煙（のろし）を上げるのに適していたことなど諸説あります。

地形と産業、暮らし、民俗は密接に関わり、現代の地域社会を築いてきました。日々、対岸に四季の移ろいを感じ、互いに「お向かいさん」の暮らしの無事を思いやる、「和」の心も土地にはぐくまれたのかもしれない。